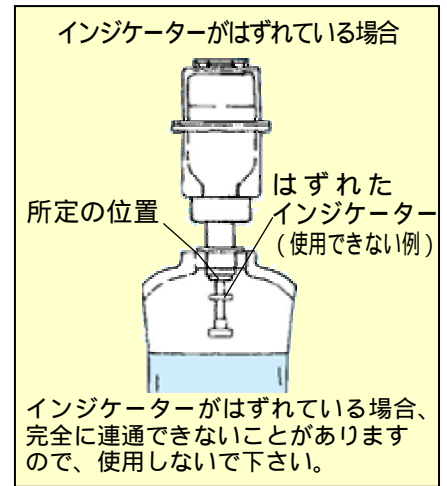


キット品 溶解操作方法

注意

1. 外装袋の開封及び溶解操作は使用の直前に行ってください。
2. 次の場合には、使用しないで下さい。
 - (1) 外装袋が破損している場合、外装袋の内面に水滴が付着している場合
 - (2) インジケーターがはずれている場合
 - (3) 溶解操作前に薬剤が溶解している場合
3. 溶解は下記の方法にしたがって行って下さい。本操作方法以外の溶解操作を行った場合、連通針の折れ、液漏れの原因となることがあります。

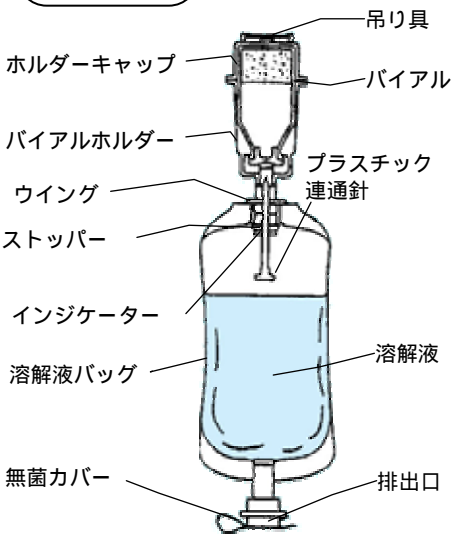
(下記 1 参照)
4. 投与に際しては、薬剤が溶解していることを確認して下さい。溶解液のみで投与しないで下さい。
5. 排出口の無菌カバーは、輸液セットを接続する直前にはがして下さい。
6. 溶解液バッグの液目盛りはおよその目安としてご使用下さい。



下記の方法にしたがって溶解して下さい。

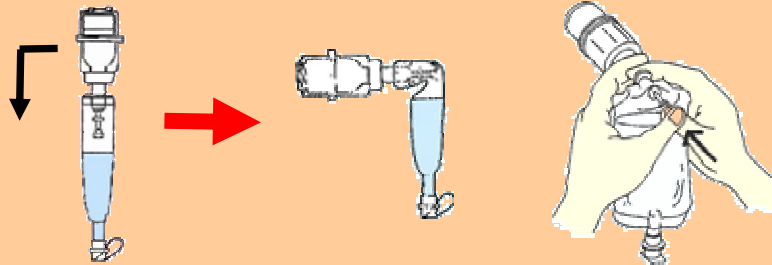
液漏れしている場合は使用しないで下さい。

全体図



1 バイアルとバッグの連通

- ・ 下図のようにバッグを折り曲げてから連通針を押し込まないと、連通針が折れることがあります。
- ・ 連通針の押し込みが浅い状態でポンピング(2・3の操作)を行うと、液漏れの原因となることがあります。



バイアル部分を上にしてキットをまっすぐに立ててから、バイアル部分を後方に倒して溶解液バッグの連通部を直角に折り曲げます。折り曲げる際に、連通部に溶解液が入らないように注意して下さい。

連通針がバイアルに向かってまっすぐ入るように、バッグの上から両手親指で連通針を根本まで(押し込めなくなるまで)押し込んで下さい。連通針が戻った場合、再度、完全に押し込んで下さい。

2 バイアルへの溶解液の注入



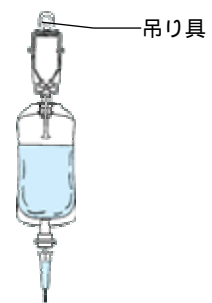
バイアル部分を下にし、バッグを数回強く握り(この操作をポンピングといいます)、バイアルに1/2程度溶解液を注入して下さい。バイアル内に溶解液を入れすぎた場合、溶液がバッグに戻りにくくなる場合があります。バイアル部分を軽く振り、薬剤を溶解して下さい。

3 溶液のバッグへの移入



薬剤の溶解を確認し、バイアル部分を上にしします。バッグをポンピングし、バイアル内に薬剤・溶解液がなくなるまで、溶液をバッグに戻して下さい。なお溶解していない薬剤がバイアルに残っている場合は、2・3の操作を繰り返して下さい。

4 輸液セットとの接続



吊り具を起し、排出口の無菌カバーをはがして輸液セットを接続します。

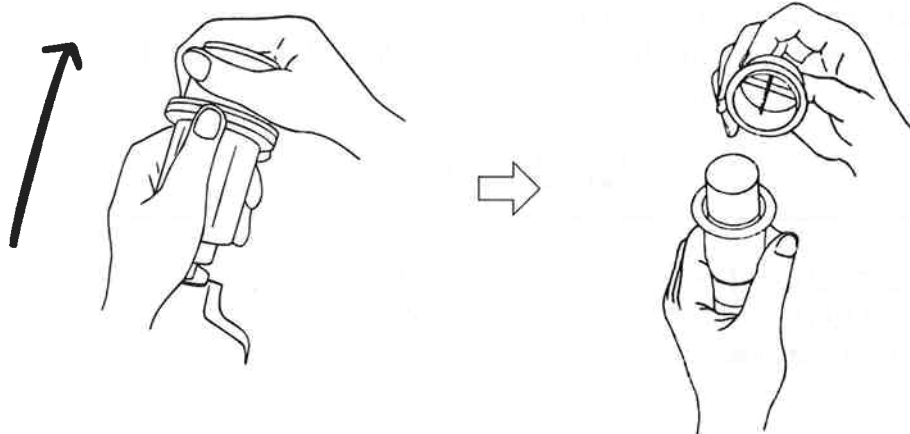
キット品 分別廃棄操作方法

- 対象製品
- アクチオスキット
 - インダストキット
 - セファビコール静注用
(1gキット)
 - セフロニックキット
 - 静注用フラゼミシンS
(2gキット)
 - ロゼクラートキット
点滴静注用1g

下記の方法にしたがって分別廃棄して下さい。

① ホルダーキャップ部の開封

バイアルホルダーをもち、ホルダーキャップ部を上につまみ上げて外して下さい。



② バイアルの取り出し



バイアルをバイアルホルダーから抜き取って下さい。

構成部品の分離
構成部品は以下のように分離できます。

